

学校教育講座 廣瀬 聡弥 教授

幼稚園の様々な遊び場所が
仲間との関わりに及ぼす影響

キーワード 仲間関係 / 幼児の遊び / 遊び場所 / 環境/

どのような研究をなぜ行っているか

以前は、子ども達の身近に野原や空き地、公園などの様々な遊び場が存在した。しかし、現在はそれらの遊び場が大幅に減少している。また、公園などの遊び場が整備されている地域においても、安全上の問題から、子ども同士で自由に遊ぶことは難しい。このような社会状況の中で、幼稚園や保育所、こども園などの施設が、どのような遊び場を子どもに提供するのがますます重要になっている。遊び場について詳細に見ると、様々な特徴を有した場所が存在する。遊びが異なること、そして遊び相手が異なることは、屋内と屋外の様々な特徴を有した遊び場所が関連していると考えられる。

そこで、幼稚園の屋内と屋外場面における幼児の遊びを観察し、屋内と屋外場面の様々な遊び場所において、幼児の社会的関わりが異なるのかについて調べた。その結果、その結果、3歳児は、遊びの中で他児と関わるうえで物理的環境の影響を受けやすく、発達に応じた保育室内のコーナーや屋外環境の工夫などの様々な環境構成が、豊かな社会的関わりを生み出すために必要であることが示された。一方、5歳児にとっては、平地のような物理的環境から受ける刺激が少ない自由度の高い場所を積極的に設けることも、想像力を働かせながら仲間と遊ぶ活動を生み出すために必要であることが示された。また、屋外の共有スペースは、両年齢群にとって相互交渉へ移行しやすく、様々な相手と関わりやすい環境であることがわかった。幼児施設において、様々な要素を持った場所が存在することが、多様な仲間との相互交渉を促し、幼児の発達にとって重要であることが明らかになった。

研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

現在及び将来の幼稚園や保育所、あるいは幼児のための公園の設計にも大きく寄与するものと考えられる。具体的には、幼児教育において環境構成が重要であることは自明であるが、発達に応じて保育室や園庭の環境をどのように構成すべきかなどの具体的な提案ができる。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

廣瀬聡弥 (2007) 幼稚園の屋内と屋外における様々な遊び場所が仲間との関わりに及ぼす影響. 保育学研究, 45, 54-63.

2021年度 — 園内研修などにおける指導助言や講師：奈良教育大学附属幼稚園「トキメキ・ヒラメキ・子どもの思い探求し、思考する保育を目指して」、日本幼年教育会「教育・保育という行為と営み」など

2022年度 — 園内研修などにおける指導助言や講師：奈良女子大学附属幼稚園「対話による学び」、奈良市幼保合同公開保育研修「とことん遊び込む子どもを目指して」、奈良市アクティブステージ研修「子どもの遊びを通して垣間見る発達と学び」など